

香川大学大学院地域マネジメント研究科の 機能強化の取組み中間報告

原 真志

香川大学大学院地域マネジメント研究科
研究科長 / 教授

高度専門職業人養成機能強化促進委託事業
推進委員会

(第3回中間報告会)

日時：平成29年12月11日(月) 12時30分～15時30
分

場所：中央合同庁舎第4号館 12階1208特別会議室

文部科学省平成29年度 高度専門職業人養成機能強化促進委託事業

テーマ

地方創生推進のための経営系専門職大学院機能強化事業
～メディア・コンテンツ活用、国際化、ポストMBAプログラム、
ケースメソッドを軸に～

目的

本事業は、香川大学大学院地域マネジメント研究科(以下、研究科)が、平成16年(2004年)の設立以来、地域活性化に貢献する実践的経営人材の育成をミッションとして取り組み13年間で382名の修了生を輩出して来た実績を踏まえ、地方国立大学に期待される地方創生への役割に応えるための経営系専門職大学院の機能強化を趣旨として、地方創生推進のための教育プログラムの開発を行うことを目的とする。

達成事項と残された課題・地域からの要望

達成事項	残された課題・地域からの要望
<ol style="list-style-type: none">1) 創設後13年間の実績2) 常に2学年60名定員を充足 300名を超える修了生 学生バックグラウンドの多様化 職場では得られない ネットワーキング機会3) 産学官連携の取り組みの進展 アドバイザーボード会議4) 経済団体による提供講義、5) 公式非公式による人材育成と協働 のための多様な場の提供 香川ビジネス&パブリックコンペなど	<ol style="list-style-type: none">1) 活動の効果的情報発信2) 地域活性化のための国際化3) 修了生の活動支援4) 地域の大きな方向性を示す産学官共同研究5) 点在する地域活性化の取り組みを束ね、持続可能なビジネスに練り上げる役割

地方創生のための経営人材育成強化 ～ 4つのプログラム開発～

メディア・コンテンツ
活用人材教育プログラム

国際ビジネス研修プログラム

四国型地域マネジメント・ケースメソッド教育

ポストMBAプログラム

国際ビジネス研修プログラム

【目的】国際的な視野で地方創生を進めることができる経営人材の育成

【必要性】地域企業の海外進出やインバウンド観光への対応など、地域活性化にも国際的視野で取り組む必要性が高まっている。

【事業内容】イタリアのフィレンツェ・ミラノにおいて、フィレンツェ大学・ミラノ大学の協力の下、国際ビジネス研修プログラムを開発し、試験的に実施し、次年度以降の本実施に向けた準備・検討を行う。

【期待される効果】イタリアは観光産業・伝統文化産業での中小企業の付加価値型の取り組みや、地域のビジネス環境、ソーシャルビジネスに注目すべき先進事例が多く、また香川の企業で国際進出の成功例がある。イタリアでの現場経験をベースに、国際的視野で地域活性化に取り組むことができる人材、地域企業の国際展開を成功させるとができる人材を育成し、地方創生に貢献することが期待される。

国際ビジネス研修プログラム 中間報告

1)目的:

香川大学大学院地域マネジメント研究科は2004年に地域活性化に貢献するビジネススクールとして開設した。設立当時、地域に焦点をあて人材教育は地域における需要に合わせることにした。しかし、設立後10年余りが経過し、地元企業の海外進出の動きが進み、インバウンド客への期待が高まるなど、地域活性化にとっても国際化が必要不可欠なものとなった。

地域マネジメント研究科のMBAの集大成であるプロジェクト研究でも国際的なテーマを扱う学生が増えた。このような変化に、本研究科においても国際的なマネジメント能力の育成を強化する必要性が高まっているため、国際ビジネス研修プログラムの開発を行うことを目的とした。まずは、プログラム開発の試行のため国際ビジネス研修を実施した。

2)日時 :平成29年9月25日～10月4日

3)訪問先:イタリア共和国ミラノ市及びフィレンツェ市

4)参加者:8名(教員3人、学生5人)

5)本プログラムで養成する人物像:

国際感覚を持った地域プロデューサーである。地域プロデューサーとは、地域の人々を巻き込み、地域の個性を生かした地域振興を図る人材である。

6)国際ビジネス研修の成果:

①ミラノ市及びミラノ市周辺:

アパレルメーカーのマツオインターナショナル(株)が出資する縫製工場を訪問し、最新のコンピュータ制御の型紙で布をカットする技術を見学した。



さらに同社が経営するショップ2店舗を訪問し、地域中小企業が海外進出した際の課題・問題点・成功要因を現場で直に学ぶことができたことは大きな成果である。

また、ミラノ周辺の皮革製品工場では、周辺に200～300の工場が集積しており、商品開発するプロデューサーが地域の分業体制を管理しているが、大手ブランド会社から定期的にオーダーを受注することで、企業が継続、発展している点は、日本の地域中小企業の経営に参考になる点が多い。

フィレンチェ市及びトスカーナ州周辺：
サンドイッチショップに出来立てのパンやハムが配達されるという分業体制の仕組みが出来上がっており、これらの理由を探り新たな見識を身につける。
海外展開している企業を訪問して研修することで、社会や産業界から求められる、一人一人の労働生産性を向上させ、産業界のニーズが高いアグリビジネス分野に特化した経営人材を養成する。



ソーシャルビジネスの先進地域を訪問し、日本とは違うビジネスに触れ、目で見て体感することで、本研究科の学生が、瀬戸内地域でもビジネスの中心となっている観光産業、伝統文化産業、その他地域の社会的課題をビジネスの手法を用いて解決できる人材に成長する。

7)学生感想:

- 研修で学んだことを踏まえ、自分が考えるビジネスプランや自分の仕事、自分の地域プロジェクトに活かしたい。
- イタリア・トスカーナのワイナリー・アグリツーリズムの取組を分析し、大串半島・さぬきワイナリーにおいて導入すべく研鑽を積みたい。
- 景観保護に着いて考えさせられた、できあがった景観でそこに住む人たちの芸術的な感性が育まれていき分化がより深化していくと感じた。
- 今回の研修で大きく固定概念を変化させることができ、帰国後、岡山イノベーションコンテストで大賞(100万円)とシリコンバレーの旅行を受賞した。
- イタリア企業のブランディングを学習し、今後の国際ビジネスに活かしたい。

8)今後の予定:

- ・2018年1月～2月に地域マネジメント研究科主催で学生の研修報告会を実施する。
- ・フィレンチェ大学をはじめとして欧州の大学や企業、そして欧州で活躍を目指す。また、瀬戸内地域の企業等の受け入れ機関との関係を構築することで、欧州でのビジネス研修プログラムの継続的な実施を目指す。本事業の検証の結果を踏まえて、2018年度を目途に、研修プログラムに単位を出すことで、本研究科の正課への組み入れを行い、実践型海外ビジネス演習の授業を開発する。

四国型地域マネジメント・ケースメソッド教育

【目的】多様で複雑な地方創生の課題の本質を見極め解決策を探索できる経営人材育成のためのケースメソッド教育プログラムの開発

【必要性】ケースメソッドはハーバード大で100年以上前に開発され、慶応大学が本格的に導入したが、地方創生や地域活性化の領域のケース、ケースメソッドは十分に開発されていない。

【事業内容】地域マネジメント研究科で実施している四国経済事情四国における実務家非常勤講師の授業を活用し、実際の地域政策、地域ビジネス、地域資源活用の実例を元にしたケースを作成し、「四国型地域マネジメント・ケースメソッド」として教育プログラムを開発する。平成30年度以降の正規MBA授業での本実施に向けた準備・検討を行う。

【期待される効果】地域での問題発見・分析能力、意思決定能力、等を身に付け、地方創生に貢献することが期待される。

地域マネジメント実践プロジェクト ～ 四国型ケースメソッドを用いた試み～

《ねらい》

- 本研究科修了生(四国をフィールドに活動、地域活性化に興味関心)を対象に、日頃の活動で直面する「社会課題」に着目し、ケースメソッドを学びながら「社会課題」「地域創生」の議論(課題解決策の検討など)を重ね、「教育プログラム(ケース)」をデザインする。

《参加者》本研究科修了生12名 + 本研究科教員3名

《講師》徳島文理大学 教授 竹内 伸一氏

《日時》第1回10月23日(月)、第2回11月6日(月)、第3回11月13日(月)、第4回11月27日(月)
いずれも18:20～21:30

《場所》香川大学研究交流棟5階

《内容》「ケースメソッド教授法」講義、グループ作業(討議、発表)、全体討議



「四国型ケースメソッド」開発に向けて

「地域マネジメント」のケース要件

1. 地域における「見えにくいもの」が見えてくる
 - ケースを読むことで見えてくるものがある => 知ることには価値がある
 - ケースを議論することで見えてくる => 考えることに価値

=> 複数の立場、視点が含まれている
2. 地域における「新しい動き」が含まれている
 - => 「新しい動き」をエンカレッジ(促進)する意味がある
3. 四国にある「資源」、四国固有の「問題」「難しさ」に着目している
4. 地域マネジメントの課題として普遍性がある
 - => 他の地域への転用、応用ができる
5. 問題をありありと描くよりも、未熟でも構わないので何らかの問題解決行動がある
 - => 問題解決行動を議論、評価ができる

=> 複数の問題解決策から試行錯誤で選択している
6. 地域マネジメント研究科の研究・教育の成果と言えるものがある
とよい

「地域マネジメント」とは？

- 地域が、地域の課題に気づき、多面的に捉える(客観性、普遍性)
- 地域が、その課題の解決に向けて、主体的に取り組む
- その際、地域内外の資源を、地域に適した形で活用する
- ただし、地域には次の状況が存在する
 1. 決定的な意思決定者(主体)が不在である
 2. それ故、関係者間の合意形成では納得性が重要となる
 3. 関係者が保有・共有する情報は不完全である

4テーマ(4チームに分かれて作業)

1. シビックプライドの醸成に向けて:任意団体「シビックプライド高松」の軌跡と今後の可能性
2. 四国の空き家問題の解決策から移住促進を考える:空き家と地方志向の都会人のマッチング
3. 相談援助従事者の支援ネットワークのあり方:支援者が生み出す狭間と障壁について考える
4. 社会参加を諦めている高齢者がまちに出ることで地域を活性化する:青年療法士まちづくり塾の取り組み

今後の予定

〈ゴール〉

- チームで「テーマを練る」「ケース骨子を磨く」という経験をベースに、各自が自分のテーマで「ケース構成・骨子」を作成し、各自がケースを執筆する

〈日程〉

- 12月18日(月)18:30~21:30 @ 香川大学研究交流棟5階
- 1月15日(月)同上

ポストMBAプログラム

【目的】地方創生のために地域マネジメント研究科の修了生の継続学習、実践的取組みの支援

【必要性】地域マネジメント研究科の修了生から、プロジェクト研究の内容を継続し具体化したい。職場で新たな課題に取り組んでいるが、地域マネジメント研究科と関係をもってさらに学習し、教員の助言を得て進めたいという要望が寄せられている。

【事業内容】上記の修了生の要望に応える博士課程に替わる新たな「ポストMBAプログラム」の構築に向けて、修了生から研究テーマを公募して、試験的に運用し、望ましいプログラムのあり方を検討する。平成30年度以降の本実施に向けた準備・制度設計検討を行う。

【期待される効果】実務家である修了生の取組みを支援するプログラムにより、地域創生の実行力を身に付けるとともに、魅力ある雇用機会の創出等の地方創生の成果がもたらされることが期待される。

ポストMBAプログラム

- 教員を通じた公募 2017年8月21日締切
- 6件採択

五色台における互助のまちづくり:子ども、高齢者、観光客の結びつきに着目して

世界のSAKEマーケットを視野に地域性を付加価値とした酒蔵経営に関する研究

香川とアルメニアの国際的ビジネス・文化交流促進による双方向地域活性化プロジェクト

離別・別居家庭の「子の監護」に関する総合的支援事業

地域住民が作る地域活性化のためのPR動画プロジェクト

ウェブサイトを活用したネパール国内観光の情報提供事業

メディア・コンテンツ活用人材教育プログラム

【目的】地方創生のためにメディア・コンテンツを効果的に活用できる経営系高度専門職業人の育成

【必要性】いい取り組みをしても浸透力に欠け、地域活性化や新商品のコンセプト等の発信が出来ていない企業や組織が多く、メディア戦略関係の相談が寄せられている。

【事業内容】四国・香川にはメディア・コンテンツ産業関係の集積が弱いため、東京やロサンゼルスから専門実務家を外部講師として招いてメディア・コンテンツを地方創生に生かすための講義・ワークショップを試験的に実施し、平成30年度以降の本実施に向けた準備・検討を行う。

【期待される効果】上記の経営人材により地域の要素を効果的に取り入れた映画・アニメ製作、アニメと地場産品のコラボ、コンテンツツーリズムを促進し、地方創生に貢献することが期待される。

メディア・コンテンツ活用人材 教育プログラム

- 講演予定
- 2018.1.20 日米アニメビジネス
 - 海部正樹氏 Wowmax Media!
- 2018.1.27 アニメと地域活性化
 - 柿澤史行氏 アニメツーリズム協会事務局次長
 - 若林福成氏 “萌え酒”, 合同会社福成
- 2018.2.3 米国映画・テレビビジネス
 - Ko Mori氏 PGAプロデューサー, Eleven Arts, Inc.
 - Heidi Ruen氏 “Rock the Park” プロデューサー,
Tremendous Entertainment
- 日程未定 VRと地域活性化

4つの教育プログラム
による
地方創生推進

